

# 病害虫防除技術情報第5号

令和 2年 5月29日  
三重県病害虫防除所

三重県内の飼料用トウモロコシでツマジロクサヨトウの発生が確認されました。

1 病害虫名 : ツマジロクサヨトウ (チョウ目・ヤガ科) *Spodoptera frugiperda*

2 発生確認作物 : 飼料用トウモロコシ

3 発生確認の経過

令和 2年 5月 28 日、鈴鹿市内の飼料用トウモロコシ栽培ほ場において、ツマジロクサヨトウの疑義幼虫による食害が確認され、被害株から幼虫を採集し農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼をしたところ、5月 29日にツマジロクサヨトウと同定されました。

昨年 9 月にも鈴鹿市内の緑肥用ソルガム栽培ほ場で発生が初確認され、9 月 6 日に令和元年度特殊報第 3 号として発表を行ったところです。

国内では、昨年 7 月に初めて鹿児島県で発生を確認されて以降、21 府県で確認されており、また今年 4 月には沖縄県、5 月には複数県で確認されています。

このような状況下で、三重県病害虫防除所が、国の方針に基づき調査を行っていたところ、複数のほ場での発生を確認しました。

4 本種の特徴

(1) 形態

成虫は開張約 37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋を持ちます。終齢幼虫は体長約 40mm で、頭部の逆 Y 字が淡色で、尾部の刺毛基盤(黒色斑点)が隆起しているのが特徴です。(図 1)

卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われます。



(図 1) ツマジロクサヨトウの幼虫(左)、頭部(中央)、尾部(右)

## (2) 生態

暖地に適応した種(南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産)であり、熱帯では年4～6世代発生します。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散しますが、暖地を除く地域では越冬することはできないとされています。

## 5 被害

飼料用トウモロコシでは、幼虫が株の中心部に食入し葉、茎を加害します。摂食量が多く被害株には多量の糞が散在します。

## 6 防除対策及び注意事項

- (1) 多発すると被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努めてください。
- (2) 発生ほ場においては薬剤散布を行うか、薬剤散布が困難な場合は早期に刈取りするとともに、幼虫の分散を防ぐためほ場への残渣のすき込みを行ってください。薬剤散布を行う場合は、下記の農林水産省 Web ページに掲載されている農薬リストを参照してください。

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/attach/pdf/tumajiro-101.pdf](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-101.pdf)

- (3) 農薬の散布に当たっては、無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向き、防除器具のノズルの向きにも十分注意し、農薬の飛散(ドリフト)防止に留意してください。
- (4) 詳細は、下記の農林水産省 Web ページの「ツマジロクサヨトウ防除マニュアル」を参照してください。

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

問い合わせ先

三重県病害虫防除所

電話番号：0598－42－6365

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。